様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 ２２ 日現在

機関番号：６４３０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ０２０４３

研究課題名（和文）越境的時空間及びメディアとしての移民船をめぐる文明史的研究

研究課題名（英文）A Civilization Process Perspective on Immigration Ships as Transborder Time/Space and Media

研究代表者
根川　幸男（Negawa, Sachio）

国際日本文化研究センター・研究部・プロジェクト研究員

研究者番号：４０７７１５０６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、1908年から1941年に日本～ブラジル間に就航した移民船の越境的性格と教育・文明化の機能を、日本とブラジルその他内外の文献資料や移民の記憶・体験を通して明らかにすることである。本研究を通じて、それらの移民船の持つ、①人・モノ・動植物の接触領域、②非公式の帝国の移動する「領土」、③「一等国民」形成の時空間、④船内新聞発行や船内学校の授業、寄港地での見聞を通じた移民の教育・文明化の時空間、⑤ホスト社会へもインパクトを与えたグローバルなメディアなど、単なる労働力の輸送手段とは異なる諸性格や文明史的意味を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
戦前期日本のブラジル行き移民船について、国内外で得られた①文献資料、②インタビュー・ライフドキュメント資料を収集・整理・保存し、その一部を公開した。これらの資料を活用し、移民船をめぐる研究が、送出国（地域）と受入国（地域）という移民（史）研究の二大局面の間を越境／トランスする第三の局面として、きわめて重要かつ多くの課題を包含するとともに、その領域を押し拡げる可能性をはらんでいる点を明らかにした。また、研究成果を紙媒体の報告書や学会誌に発表するとともに、小学校・高等学校・大学の授業やワークショップで活用し、海洋国家・日本の歴史における移民船の持つ意味を次世代に向けて発信した。

研究成果の概要（英文）：This research project has illuminated the characteristics of migrant vessels that plied between Japan and Brazil. The researcher has looked into the period between 1908 and 1941 and explored five themes: (1) the migrant vessels and destinations as contact zones among people (such as immigrants, ship crew and local residents), goods, fauna and flora; (2) the movement of the informal empire along with that of the vessels; (3) the process by which the migrants gained awareness of their Japanese national identity; (4) the education of Japanese passengers on and off migrant vessels; and (5) the influence of Japanese media on the Brazilian society. The project has challenged the extant research that regards migrant vessels as a mere mode of transport. The main contribution of this project is to treat the migrant vessels, the immigrants and the destinations as part of the holistic transborder time-space phenomena.

研究分野：移植民史

キーワード：移民船　ブラジル　越境的時空間　航路体験　記憶　文明化　メディア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

移民船（海外への移民を輸送するための船舶）の近代日本人のグローバル化に果たした役割は計りしれないが、移民船をめぐる記憶や体験に関する歴史研究は未開拓領域が大きい。

日本の近代化は常に人口問題とともにあり、過剰人口の解決策として海外移民が奨励され、1920 年代半ばには南米への移民が国策化した。大型ジェット機登場まで国際移動の主役は船であり、その多くは移民船であった。それゆえ、移民船は様々な文化的背景を持つ人びとが共生する異文化接触の場でもあった。特に、戦前のブラジル行き移民船は、日本最初の「世界一周航路」を 36～70 日の日数を要して航海し、日本人が集団として体験した史上最長のグローバル移動であった。この長い洋上の時空間を船客たちはどのように過ごしたのだろうか？それは、石川達三の小説『蒼氓』（1939）の描くような悲惨な棄民の道ゆき、あるいは故郷から異郷へ人びとを運ぶ退屈な時間の連続だったのだろうか？本研究は、こうした問いが契機となっている。

人びとがなぜ海を渡ったのか？、という問題については、プッシュ・プル要因をはじめ、出移民・入移民の双方から研究が重ねられてきた[1]。近年、移民（史）研究において、「越境」や「グローバリゼーション」、「トランスナショナル」などの概念を用いた論考や書物が多く発表されているが[2]、大きな盲点と考えられる課題がある。それは、従来の研究の多くが対象領域を陸地に限定しているかに見える点であり、日本列島住民の「トランスナショナル」な移動の前提として、海を渡る行為や過程、すなわち「航路体験」への関心が乏しい点である。

こうした移民船による「航路体験」への関心も含めて、近代日本人がどのように海を渡ったのか？、というグローバルな移動の過程とその体験の持つ意味については、赤坂（1974）、黒田（1994）、山田（1998）[3]等のすぐれた先行研究があるものの、それ以後に積極的なアプローチがなされてきたとは言いがたい[4]。このテーマについては、移民送出国であったイタリアや移民受入国であったブラジルでも、記念行事などに関わり散発的に関心を集めることはあっても（Mu.MA - Istituzione Musei del Mare e delle Migrazioni 2011[5]、ブラジル日本移民史料館 2011[6]）、継続的な研究がなされている状況にはない。

２．研究の目的

本研究の目的は、1908年から1940年代初頭に日本～ブラジル間に就航した移民船の越境的性格と教育・文明化の機能を、日本・ブラジルその他内外の文献資料や移民船体験者の記憶・体験を通して明らかにすることである。ブラジル行き移民船に焦点化した理由は、日本人が集団として体験した史上最長のグローバル移動であり、多くの異文化接触の機会を持ったためである。また、アジアやハワイ、北米への移民と異なり、ブラジル行き移民は家族単位であり、北海道から沖縄まで全都道府県に及んだため、当時の日本社会の縮図としての船内コミュニティを形成した点も理由にあげられよう。

本研究の実施に当たって、具体的には次のような目標を立てた。

①戦前期日本のブラジル行き移民船をめぐる内外の文献資料（画像・映像資料を含む）やインタビュー、ライフドキュメント資料を収集し整理する。

②上記①の資料の分析によって、移民の越境体験（衣食住、教育、アイデンティティ・世界観の再編等）と移民船の多方向的メディアとしての役割に注目し、移民船の持つ教育・文明化の機能とそれらの発展過程を解明する。

③本研究の総括を通じて、近代の日本・ブラジル双方にとって単なる労働力の輸送手段とは異なる、移民船の性格とそれらをめぐる諸事象の文明史的意味を問う。

３．研究の方法

日本・ブラジルその他内外の国・地域において、主に次のような、文献調査（画像・映像資料を含む）および移民船体験者へのインタビューやライフドキュメント調査・研究を実施した。

①国立国会図書館、外務省外交史料館、高知県立歴史民俗資料館、商船三井社史資料室、国立台湾図書館、韓国中央図書館、ガラタ海事博物館、サンパウロ人文科学研究所、サンパウロ州立公文書館などにおいて、関連資料を発掘・収集した。

②上記①の資料と日本・ブラジル双方の新聞資料を関連づけ、内容を検証しながら、ブラジル行き移民船の越境的性格と教育・文明化の機能、それらの発展過程を時系列的に整理した。

③各インフォーマントのインタビュー、ライフドキュメント収集を行い、これらの非文字資料の分析を通して、移民船体験によるアイデンティティや世界観の再編、人的ネットワーク構築の過程とメカニズムの解明を試みた。

④さらに、船会社・移民関連団体の広報誌記事およびインタビュー資料の分析を通じ、各移民船が多方向的メディアとして外交に及ぼした役割、特に 1940 年「ぶら志゛る丸」処女航海の文化・スポーツ外交や同年の「ぶりすべん丸」の動植物外交などがブラジル日系社会およびホスト社会に与えた影響について検討した。

４．研究成果

本研究を通じて、次のような研究成果が得られた。

1) 2017～2020年度までに国内外で得られた①文献資料、②インタビュー・ライフドキュメント資料の整理・保存と活用。
【日本国内調査】
①文献資料：商船三井社史資料室（大阪商船移民船の船内新聞）、国立国会図書館（「第七九回神奈川丸移民輸送日誌」（1927）、「もんてびでお丸の移民輸送監督新宅隆一日誌」（1931）等）、外務省外交史料館（「本邦移民取扱人関係雑件海外興業株式会社海外渡航者名簿伯剌西爾行」等）、高知県立歴史民俗資料館（竹村殖民会社資料等）、村上家（熊本県）所蔵「第百拾四回伯剌西爾渡航　航海日記」（1929）などの複写・デジタル画像化と一部翻刻を行った。
②インタビュー・ライフドキュメント資料：移民船体験者T.M.氏、同T.T.氏（高知県在住）、元大阪商船事務員T.T.氏（滋賀県在住）、同S.N.氏（東京都在住）等を対象とした、音声データ、古写真・関連資料などの画像データを得た。

【海外調査】
①文献調査：サンパウロ人文科学研究所・ブラジル日本移民史料館（日本の移民船が持ち込んだメディアについて調査）、サンパウロ州立公文書館（Diario da Manha, A Tribuna等ブラジル側メディアに報じられた日本移民船の文化・スポーツ外交関係資料）、国立台湾図書館（内台航路関係資料）、韓国中央図書館（ブラジル・コーヒー輸入関係資料）、ガラタ海事博物館（イタリアのブラジル行き移民船関係資料）などの複写・購入・デジタル画像化を行った。
②インタビュー・ライフドキュメント資料：M.S. 氏、Y.A. 氏、K.K. 氏、A.N. 氏（以上ブラジル・サンパウロ市在住）等を対象とした、音声データ、古写真・関連資料などの画像テータを得た。

2) 上記1)のような収集資料を整理・分析・活用し、日本移民学会、日本海事史学会、人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト「日本関連在外資料調査研究・活用事業」国際シンポジウム「国際海洋都市平戸と異文化へのあこがれ —在外資料が変える日本研究」、翰林大学校日本学研究所・国際シンポジウム「ポスト帝国の文化権力と東アジア：人の移動と記憶」シンポジウム、XXII ICLA: International Comparative Literature Associationマカオ大会などの国際会議・学会において研究成果を発表し、それらの学会誌・報告書に寄稿した。（研究成果の詳細は、本報告書の「５．主な発表論文等」を参照）。
　また、本研究の総括的報告書として、村上家所蔵「第百拾四回伯剌西爾渡航　航海日記」（1929）の全文画像と翻刻文を中心に、『「越境的空間及びメディアとしての移民船をめぐる文明史的研究」成果報告書』（2020年3月）を発行し、関係機関やインフォーマントへ配布した。

3) 本研究の結果、1908年から1940年代初頭に日本～ブラジル間に就航した移民船の、日本・ブラジル双方にとって単なる労働力の輸送手段とは異なる、次のような性格と文明史的意味が明らかになった。
❶人・モノ・動植物の接触領域であり、広域的な交換の手段
❷非公式の帝国の移動する「領土」
❸異文化との接触による「一等国民」形成の時空間
❹船内新聞発行、船内学校・ポルトガル語講習会、船内・寄港地での見聞などを通じた、移民の教育・文明化の時空間
❺国際的な人流・物流によってホスト社会・国際社会へもインパクトを与えるグローバルな多方向的メディア

4) 研究成果の次世代還元のための出前授業やワークショップを、2019年度に次のような教育機関で実施した。❶兵庫県立国際高等学校「提案日本の選択」（5月10日）、❷中央大学総合政策学部・李里花准教授担当演習（9月7日）、❸兵庫県立国際高等学校「CCC総合的な学習」（9月9日）、❹京都市立桂坂小学校6年生対象クラス「移民船のお話」（11月28日）。
　なお、2020年度以降もこうした次世代還元のための活動を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、調整がつかなかったことを付記しておく。

5) 本研究の後継的プロジェクトの企画立案
　さらに、本研究において現在までに明らかになった移民船航海をめぐる文明史的研究の成果や問題点を継承し、本研究で得られた国内外のネットワークを活用、より広い視野と国際的な連携を通じて、後継的プロジェクト「近代日本人のグローバル移動と動植物交換をめぐる文明史的研究」（科研費基盤研究(B)、研究課題/領域番号：20H04413、代表：根川幸男）を企画立案。同プロジェクトは2020年度に採択され、研究を開始した。

---

[1] 日本各地からの海外移民の動機・要因については、岡部牧夫（2002）『海を渡った日本人』山川出版社 pp.19-21 を参照。
[2] 例えば、レイン・リョウ・ヒラバヤシ他編（2006）『日系人とグローバリゼーション—北米、南

米、日本』人文書院、村井忠政（2008）『トランスナショナル・アイデンティティと多文化共生』明石書店、日本移民学会編（2018）『日本人と海外移住—移民の歴史・現状・展望』明石書店等。

[3] 赤坂忠次（1974）「日本—南米東岸航路移住者輸送史」『移住研究』No.15，pp.55-84、黒田公男（1994）「南米移民船の事故・事件簿—トラホーム、コレラ、爆発、戦禍—」『移住研究』No.31，pp.1-17、山田廸生（1998）『船にみる日本人移民史—笠戸丸からクルーズ客船へ』中公新書。

[4] 報告者はこうした状況への危機感と自らの好奇心から、根川幸男（2013）「「移民船」の基礎的研究」森本豊富編著『人総研プロジェクト「人のトランスナショナルな移動と文化の変容に関する研究」報告書』早稲田大学人間総合研究センター，pp.25-39、同（2015）「海を渡った修学旅行—戦前期ブラジルにおける日系子弟の離郷体験」『移民研究年報』第 21 号，pp.37-55、同（2016）「移民船のメディア／メディアとしての移民船」河原典史・日比義高編著『メディア—移民をつなぐ、移民がつなぐ』，クロスカルチャー出版，pp.245-272 等を発表してきた。また、1885 年のハワイ移民船山城丸の航海を取り上げたものに、Dusinberre, Martin（2016） “Writing the on-board: Meiji Japan in transit and reansition”. *Journal of Global History* 11. Cambridge University Press, pp.271-294 があり、1885 年のハワイ官約移民船「山城丸」航海の境界性や無名の移民船客たちの航路体験の持つ意味を分析し、エリートの近代化とは異なった近代化の様相を読み取っている。

[5] Mu.MA -Istituzione Musei del Mare e delle Migrazioni (org.). (2011) *Memoria e Migrazioni: Le Migrazioni Italiane Oltreoceano*. Genova, Istituzione Musei del Mare e delle Migrazioni.

[6] ブラジル日本移民史料館編（2011）『ブラジル日本移民に貢献した戦前活躍した移民船』／ *Navios de Emigração Japonesa que atuaram antes da Sugunda Guerra Mundial*. ブラジル日本文化福祉協会・ブラジル日本移民史料館。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計10件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 根川幸男	４．巻 77
２．論文標題 一九二七年移民船「神奈川丸」の航路体験―移民国策化以後の日本郵船によるブラジ移民船の航海	５．発行年 2020年
３．雑誌名 海事史研究	６．最初と最後の頁 50-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 根川幸男	４．巻 76
２．論文標題 移民船とメディアによる南米東岸諸都市の「対岸化」―大大阪と大サンパウロのグローバルな並行的発展を事例に」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 海事史研究	６．最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 NEGAWA, Sachio	４．巻 12
２．論文標題 Brasil-Maru Chegou!: Excursao para o Navio de Emigracao em 1940	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Anais do XII Congresso Internacional de Estudos Japoneses no Brasil	６．最初と最後の頁 153-162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 根川幸男，飯窪秀樹，木谷真紀子，杉山欣也	４．巻 12
２．論文標題 近代日本人の海洋体験とその歴史・文学上における影響	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Anais do XII Congresso Internacional de Estudos Japoneses no Brasil	６．最初と最後の頁 233-240
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 根川幸男	4．巻 1
2．論文標題 平戸から新世界へ―山縣勇三郎のブラジル雄飛	5．発行年 2020年
3．雑誌名 国際海洋都市平戸と異文化へのあこがれ／Yearning for Foreign Cultures An International Symposium in Hirado and A Panel in Macau New Aspects of Japanese Studies based on Overseas Documents	6．最初と最後の頁 49-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 NEGAWA, Sachio	4．巻 1
2．論文標題 Crossing “Manchukuo” and Brazil: Immigration Ships as Contact zones	5．発行年 2020年
3．雑誌名 国際海洋都市平戸と異文化へのあこがれ ／Yearning for Foreign Cultures An International Symposium in Hirado and A Panel in Macau New Aspects of Japanese Studies based on Overseas Documents	6．最初と最後の頁 109-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 根川幸男	4．巻 26
2．論文標題 人びとはどのように海を渡ったのか？―移民船をめぐる課題群	5．発行年 2020年
3．雑誌名 移民研究年報	6．最初と最後の頁 39-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 根川幸男	4．巻 62
2．論文標題 船旅と海賊とモダンガール ： 北村兼子の台湾・広東紀行	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日文研	6．最初と最後の頁 13-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 根川幸男	4．巻 74
2．論文標題 一九一〇年代前半ブラジル行き移民船の航海―横山源之助報告による厳島丸航海を中心に―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 海事史研究	6．最初と最後の頁 52-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 NEGAWA Sachio	4．巻 XI/XXIV
2．論文標題 Uma Mistura de Brasil e Manchuria: Globalizacao da Familia Moderna Japonesa vista atraves da Historia da Familia Sakiyama	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Anais dos XI Congresso Internacional de Estudos Japoneses no Brasil/ XXIV Encontro Nacional de Professores Universitarios de Lingua, Literatura e Cultura Japonesa	6．最初と最後の頁 191-208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計20件（うち招待講演　10件／うち国際学会　7件）

1．発表者名 根川幸男
2．発表標題 〈連動史〉として見たブラジルにおける日本的教育文化の展開
3．学会等名 京都大学大学院教育学研究科グローバル教育展開オフィスレクチャーシリーズ2020（招待講演）
4．発表年 2020年

1．発表者名 根川幸男
2．発表標題 1920年「南米・世界一周航路」開設の意味と植民地期朝鮮のモダニズム
3．学会等名 国際シンポジウム「ポスト帝国の文化権力と東アジア：人の移動と記憶」（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名 根川幸男
２．発表標題 人びとはどのように海を渡ったのか？―移民船をめぐる課題群
３．学会等名 日本移民学会第29回年次大会・大会シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 根川幸男
２．発表標題 Crossing “Manchukuo” and Brazil: Immigration Ships as Contact zones
３．学会等名 XXII ICLA: International Comparative Literature Association（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 根川幸男
２．発表標題 還ってきた少年―M氏の復航移民船体験と「還移民」研究の可能性
３．学会等名 日本移民学会第28回年次大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 根川幸男
２．発表標題 元年者移民とハワイ到達までの航海
３．学会等名 日本移民学会第28回年次大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 根川幸男、他3名
２．発表標題 近代日本人の海洋体験とその歴史・文学上における影響
３．学会等名 第12回ブラジル国際日本研究学会大会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 NEGAWA, Sachio
２．発表標題 Brasil-Maru Chegou !: Excrusao para O Navio de Emigracao em 1940
３．学会等名 第12回ブラジル国際日本研究学会大会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 NEGAWA, Sachio
２．発表標題 Rumo ao Brasil, a Bordo da Terceira Classe: As Experiencias de Imigrantes Japoneses a Bordo dos Navios
３．学会等名 サンパウロ州立移民博物館特別講演会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 根川幸男
２．発表標題 地球半周三等船客の旅―ブラジル行き移民船航海をめぐって
３．学会等名 愛知学院大学人間文化研究所「たび文化研究会」（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 根川幸男
２．発表標題 文明化の時空間としての南米行き移民船 ―戦間期の日本～ブラジル航海を中心に―
３．学会等名 鹿児島大学国際島嶼教育研究センターシンポジウム「船で生きる人びと―漁労・水上居民・移民船―」（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 根川幸男
２．発表標題 大正震災後、関西文芸の海洋体験
３．学会等名 日本近代文学会関西支部秋季大会講演（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 根川幸男
２．発表標題 オランダ商館文書の伝播経路可視化の試み
３．学会等名 第３回東アジア日本研究者協議会国際学術大会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 根川幸男
２．発表標題 平戸から新世界へ―山縣勇三郎のブラジル雄飛
３．学会等名 国際シンポジウム「国際海洋都市平戸と異文化へのあこがれ ―在外資料が変える日本研究」（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 根川幸男
２．発表標題 2016年9月の研究滞在以降の活動と成果
３．学会等名 サンパウロ人文科学研究所総会
４．発表年 2018年

１．発表者名 根川幸男
２．発表標題 近代日本人の「国民」意識形成に関わる一視点―移民船という体験
３．学会等名 国立全南大学校第17回日本研究フォーラム（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 根川幸男
２．発表標題 移民史から見える近現代日本人／日系人と「世界」
３．学会等名 サンパウロ人文科学研究所日本支部講演会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 根川幸男
２．発表標題 今、世界で改めて“人の移動”について叫ばれている中、学移連として、何を考えるべきか―グローバル時代の先駆けとしての学生移住―
３．学会等名 日本学生海外移住連盟OB会2017年全国総会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 根川幸男
２．発表標題 顔の見えるグローバルヒストリーへ―移民史研究からの試み―
３．学会等名 日文研木曜セミナー
４．発表年 2017年

１．発表者名 根川幸男
２．発表標題 初期ブラジル行き移民船の世界―1912年厳島丸航海にみる越境的時空間
３．学会等名 日本移民学会第2回冬季研究大会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計6件

１．著者名 根川幸男	４．発行年 2020年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 416
３．書名 移民がつくった街　サンパウロ東洋街―地球の反対側の日本近代	

１．著者名 根川幸男	４．発行年 2020年
２．出版社 なし	５．総ページ数 102
３．書名 「越境的空間及びメディアとしての移民船をめぐる文明史的研究」成果報告書	

1．著者名 稲賀繁美（編），新井菜穂子，滝澤修身，白石恵理，多田伊織，範麗雅，二村淳子，テレングト・アイトル，橋本順光，鈴木洋仁，鵜戸聡，ジラルデッリ青木美由紀，根川幸男，他31名	4．発行年 2019年
2．出版社 花鳥社	5．総ページ数 792
3．書名 映しと移ろい―文化伝播の器と蝕変の実相	

1．著者名 山室信一（編）、野村真理、林忠行、三原芳秋、小川佐和子、立木康介、藤井俊之、森本淳生、金沢周作、久保昭博、後藤春美、根川幸男、他39名	4．発行年 2019年
2．出版社 ナカニシヤ出版	5．総ページ数 232
3．書名 人文学宣言	

1．著者名 根川幸男（監修・解説）	4．発行年 2018年
2．出版社 柏書房	5．総ページ数 約2000
3．書名 『海』復刻版（第2回配本：第8巻～第14巻）	

1．著者名 根川幸男	4．発行年 2017年
2．出版社 一般財団法人日伯協会	5．総ページ数 18
3．書名 神戸から世界へ、世界から神戸へ！ブラジル移民の船上体験―神戸開港から世界一周航路まで	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関